

1993 年度学会賞受賞作品・授賞理由

◆石川賞神戸ハーバーランドを中心とした都市の再生、活性化のための一連の計画と事業

笹山 幸俊(神戸市代表 神戸市長)

〈選考理由〉

JR神戸駅周辺地区は、駅の開業以降、神戸市の中心であったが、戦後、都心の核が三宮駅周辺に移るのに伴い、都市活力が低下し、インナーシティー問題が深刻化していた。

神戸市では、昭和57年に国鉄湊川貨物駅が機能停止したのを契機に、その跡地を利用した街づくりが計画された。この「神戸ハーバーランド地区」を中心とした地域においては、住宅・都市整備公団による土地区画整理事業のほか、特定住宅市街地総合整備促進事業による都心居住の推進や、新都市拠点整備事業による21世紀に向けた高度な都市基盤づくり、港湾事業等によるウォーターフロントの整備等が進められ、そこへ多彩かつ優れた官民の施設の立地を図り、都心機能の充実や核づくりが図られることとなった。また、これと併せて周辺の既存市街地の再整備についても、居住環境整備やにぎわい空間整備など様々な事業の展開を図り、この地域一帯が再生・活性化されることとなった。

各計画の策定にあたっては、官民の間における協議調整や地域住民との合意形成に積極的に取り組むとともに、種々の公共事業を効果的におりませながら、ハーバーランド地区のみならず、その周辺も含め、一体的に水準の高い市街地形成が実現することとなった。

このような一連の計画の策定とそれに沿った効率的な事業の遂行は、まれにみる素晴らしいウォーターフロント開発の事例として他の同様な開発の規範となるものであり、多様な事業手法を組み合わせた実践的な街づくりという点において、石川賞の受賞に値するものである。

◆計画設計賞花巻駅周辺地区における地方都市再生の試み

吉田 功(花巻市代表 花巻市長)

加藤 源((株)日本都市総合研究所代表取締役)

《選考理由》

本件は、東北本線花巻駅前を含む約 20ha の地区における、商店街、ホテル、ショッピングビル、定住交流センター、屋外モールなど複合用途による地区再開発プロジェクトである。

その特徴は、(1)駅前空間のデザインにそって「飛び換地」の手法が活用されるなど、土地区画整理とアーバン・デザインを結び付けるという新しい視点を切り開いたこと、(2)長年にわたり様々な計画立案と補助事業を積み重ねてきた結果、地方都市再活性化のための持続的な都市計画への取り組みが実ったこと、(3)事業の決定過程が記録として整理・公表され、他の都市に大いに参考となる点等に要約される。

このように、花巻市は人口7万の地方小都市でありながら、中央の学識経験者、コンサルタントと協力して、キメ細かく高い水準の都市開発プロジェクトを推進している点は、中心市街地の衰退に悩む多くの地方都市自治体にとって、貴重でかつ勇気づける参考事例となるものと思われ、本学会の計画設計賞に値すると判断される。

◆論文賞同和地区のまちづくり論—環境整備計画・事業に関する研究—

内田 雄造(東洋大学建築学科教授)

《選考理由》

本論文は、戦前から現代までの同和地区のまちづくりを環境整備計画・事業進展の評価として、体系的に論じている。

そのオリジナリティは、社会的に差別された地区の環境整備計画・事業が、地区レベルの部落解放運動として位置づけられ、きめ細かな住民参加が保障され、総合性と計画性を伴っていること、インブループメント型事業の効果、住民・自治体の負担軽減措置があることを論証したことである。

論証のプロセスが、体系的な客観的資料のみならず、現地での住民・行政等の各主体との生き生きとした応答を伴ったものであり、ロゴスとパトスの統一に向かう論文構築のスタンスは評価に値する。

以上より、本論文は、今後の同和地区まちづくりのみならず、わが国の既成市街地整備、第三世界のスラム改善等に、体系的な理論と实际的知見を与えるとともに、わが国の都市計画発展に対する貢献の大きいことからして、日本都市計画学会論文賞に値すると考える。

◆論文賞「都市基本計画」の実践における計画理念及び方法の展開

土井 幸平(大阪市立大学建築学科教授)

〈選考理由〉

本論文は、著者の四半世紀におよぶ、多数の土地利用計画、「都市基本計画」の策定経験を通じて、その理論的課題としての計画理念や方法を析出し、その役割を体系的に考察したものである。まず、昭和43年の現行都市計画法制定以降、土地利用計画の展開過程を整理し、ついで、制度面の計画体系、プランナーの技術体系、都市計画図書の体系の面から、都市計画の「総合性」を論じ、さらに、「市街地整備基本計画」の実践と分析から、策定主体と計画技法について論じている。また、「都市再開発方針」の計画立案の実践を通じて、並進型計画法、漸進型計画法、所沢市の土地利用計画の立案を通じて対案型計画法を整理し、それらの有効性や实际的課題を論じ、最後に、結論と展望を述べている。

本論文は、欧米のシティワイドの関連諸計画制度を参照しつつも、著者の実践的経験の中から、我が国独自の「都市基本計画」概念を構築し、その発展に、理論面だけでなく実際面において寄与していることが高く評価出来るもので、論文賞に値すると考える。

◆論文奨励賞多地域の時系列データの分析ー市街地密度の変化曲線を中心としてー

古藤 浩(東北芸術工科大学情報デザイン学科専任講師)

《選考理由》

本論文は、多地域の時系列データをどの様に分析すれば理論的にも整合のとれた結論を導きうるかをテーマにしたものである。実際の都市計画でしばしば遭遇する面積の異なる地区の指標に対して、それらを同時に扱っても問題のない関数形を理論的に明らかにしている。具体的には、市街地密度の変化曲線を利用可能なデータ制約を考慮して提案し、その適用性を示している。その中で、ビルトアップ見込み地区という概念の導入、地区の共通性と固有性を考慮したモデルの定式化、定式化したモデルのパラメータの実際的な意味付け、首都圏自治体への市街地密度曲線の適用とその解釈など、明快で論理的な分析手法によって都市計画的に有用な分析結果が得られることを実証した。本論文は都市計画上有意義な論文であり、論文奨励賞に値するものとする。

◆論文奨励賞関東圏における近代別荘地形成に関する史的研究

十代田 朗(新潟大学建設学科助教授)

《選考理由》

本論文は、日本の近代別荘地の成立の経緯ならびにその後の展開過程を研究したものである。これは地域計画研究の一つの範疇に属するが、従来の研究には無かった日本型リゾートのコンセプト究明に研究の狙いが絞られている。論文の特徴を独創性と言う点から評価すると、歴史を軸にリゾート・コンセプトを解明し、分析の枠組みに史的研究の要件を据えて丁寧に分析を進め基礎研究の成果を得ている点である。そしてそこで止めることなく、一歩進めて現実の地域計画に活用する方向で計画学的思考を持ち考察を進めた点など、研究の結果に優れて有用性が認められる。研究の論理性に関しては、分析対象として取上げた文献とフィールドが共に必要にして十分である。

以上のように、この論文は史的研究法に基づく優れた地域計画研究と認められ、かつ別荘地を対象とした研究成果であるが、広くリゾート計画に関し優れた知見を提供しており、論文奨励賞の受賞に値すると考える。

◆論文奨励賞コミュニティ・ベースト・ハウジング：現代アメリカの近隣再生

平山 洋介(神戸大学人間環境科学科専任講師)

《選考理由》

本論文はアメリカのコミュニティ・ベースト・ハウジング(CDC)を主題とし、その形成過程、活動内容、成果等を、文献、各種資料ならびに現地ヒアリング・現地踏査を通じて調査し、オリジナルな著作としてまとめたものである。「政府による住宅供給」でもなく、「草の根住民参加」の単なる延長でもない、第3の道としての住宅供給と住環境形成、およびこれを通じた都市更新の手法は、バブル崩壊後の日本における住宅政策・都市更新政策の再構築においても注目を集めている。本論文はCDCの単なる表層的な紹介ではなく、その背景をなすアメリカ社会の深層にせまる深い実態の把握を行っており、こうした理解を通じてこそ、同種の手法の我が国への導入に関する研究も大きく展開することが期待できる。以上のように本論文は、その著作にかけられたエネルギーと成果の時宜を得た有用性、および今後の研究展開への期待から、論文奨励賞に値すると考える。